

舞鶴ゆかりのオリンピック

舞鶴市出身のオリンピック選手4名をご紹介します。

1人目は 菅谷 初穂 さん。

1932年のロサンゼルスオリンピックにおいて、競泳100m自由形に出場されました。

2人目は 大江 季雄 さん。

1936年のベルリンオリンピックにおいて、棒高跳び競技で銅メダルを獲得されました。

3人目は 山口 有希 さん。

2004年のアテネオリンピックにおいて、陸上1600mリレーで4位入賞されました。

4人目は 齋藤 里香 さん。

2008年の北京オリンピックにおいて、ウエイトリフティング競技で6位入賞されました。

● 友情のメダル

昭和11年(1936年)8月5日、ベルリンオリンピックの棒高跳び決勝は、大江季雄、西田修平という2人の日本人を含む5人の争いになりました。

雨が降る肌寒い中、5時間にわたる激闘の末に、アメリカのメドウズ選手が4m35cmを跳んで優勝を確定、続く4m25cmを跳んでいた西田、大江もメダル獲得が確定しました。

本来ならここから2位決定戦となりますが、夜になって気温が下がり、2人の疲労も激しかったことから、先輩の西田からの提案で競技を終えることにしました。

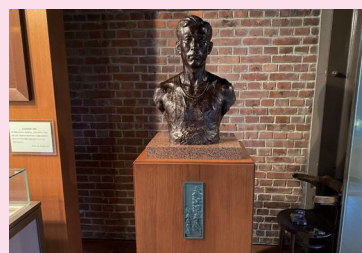
当時のルールでは、同じ高さを跳んだ西田と大江は、2人とも銀メダルのはずでした。しかし主催者は、急遽次回大会用の新ルールを適用し、4m25cmを1回目で跳んだ西田を2位、2回目で跳んだ大江を3位と公式発表しました。

表彰式では、西田がそっと大江に2位の台を譲り、メダルは2人の話し合いで、銀・銅のメダルを半分ずつつなぎ合わせるようになりました。

こうして「友情のメダル」は生まれたのです。



友情のメダルレプリカ
(市政記念館)



大江季雄像(市政記念館)

舞鶴ホストタウン通信

2021年
3月
第2号

～舞鶴市ホストタウン推進事業実行委員会会報～



1964年聖火リレーの様子(市役所前)



Noriko学級と日星高校のオンライン交流



Noriko学級生徒との市民交流(引揚記念館)

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって一年延期されておりましたが、いよいよ東京オリンピックの開催が迫ってまいりました。

3月25日からは聖火リレーが、福島県をスタートして全国を駆け巡り、5月25日には舞鶴市内で実施される予定であり、ますますオリンピック機運が高まるものと存じます。

舞鶴市では、ウズベキスタン共和国のレスリング、柔道両競技のホストタウンとして、当実行委員会で「オルガ ウズベキスタン」の応援メッセージ動画を作成、配信するなど、様々な支援、応援活動に取り組み、機運の醸成に努めております。

オリンピックの直前には、両競技の代表選手団が事前合宿に本市を訪れる予定です。

代表選手団が存分に練習を行い、オリンピック本番では最高のパフォーマンスが発揮できるよう、市をあげてお迎えしたいと存じますので、市民の皆様が力強いご支援ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



舞鶴市ホストタウン
推進事業実行委員会

委員長 内藤 行雄

～ホストタウン舞鶴市民応援団員を募集～

東京オリンピックのウズベキスタンホストタウンとしての取組や、聖火リレー実施に向けた取組と一緒に盛り上げていただける舞鶴市民応援団の団員を募集しています。

- 大会前などの合宿時の交流やおもてなし、大会本番の応援、文化交流、ウズベキスタンやホストタウンなどの情報発信、聖火リレーの実施などについて、市民の皆様の手で応援・サポートする団体です。
- 個人でも団体でも、どなたでもご参加いただけます(18歳未満は保護者の同意が必要)。



QRコードからWebにアクセスし必要事項を入力していただくか、申込用紙(市窓口で配布。市HPからダウンロード可)を事務局へご提出ください。

発行
お問い合わせ先

舞鶴市ホストタウン推進事業実行委員会
事務局 舞鶴市 市民文化環境部 文化スポーツ室 スポーツ振興課
〒625-8555 舞鶴市字北吸1044
【TEL】0773-66-1058 【FAX】0773-62-9891 【Mail】hosttown@city.maizuru.lg.jp

舞鶴市は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるウズベキスタン共和国のホストタウンとなっています。新型コロナウイルスの影響で直接的な交流は難しい状況ですが、オンライン等のITを活用した新しい形での交流が始まっています。今回の舞鶴ホストタウン通信では、ホストタウンの取組や聖火リレー、舞鶴ゆかりのオリンピックについてご紹介いたします。ぜひご覧ください。

ホストタウン交流は新たなステージへ!

● オンライン交流 (Noriko 学級一日星高校)

昨年夏、日星高校では、コロナ禍で運営が困難な状況に陥ったウズベキスタンの日本語学校「Noriko 学級」を支援する募金活動に協力され、その活動をきっかけにオンライン交流を始めました。

オンライン交流では、コロナ禍での生活内容や国内の状況について互いに教え合ったほか、Noriko 学級の生徒から、第二次世界大戦後にウズベキスタンに抑留された日本人の仕事や生活について教えてもらいました。

また、日星高校の生徒からは、これまで舞鶴市を訪れたウズベキスタンの方々との交流について紹介するとともに、日本語をNoriko 学級の生徒に教えるなど、楽しく交流が行われています。



オンライン交流の様子

● Noriko 学級の生徒が来鶴

昨年12月、Noriko 学級で日本語を学んでいる4名の生徒が舞鶴市を訪れました。舞鶴市では、Noriko 学級があるリシタン市で日本語の習得に励む優秀な若い人材に対して、「介護福祉」や「茶の栽培普及」、「工業・産業」の専門技術を身に付けていただき、舞鶴市やウズベキスタンでその技術を生かしてもらおうと、人材育成などの交流に関する覚書を交換しており、4名は舞鶴市内にあるポリテクカレッジへ進学することを念頭に来鶴されました。

その際、引揚記念館を訪問し、引揚の歴史について学び、市民の方々との意見交流会を行いました。



引揚記念館を訪問

● メッセージ動画で応援!! 頑張れ、ウズベキスタン選手団!

新型コロナウイルスに負けず、オリンピック出場に向けて頑張っているウズベキスタン選手団に向け、応援メッセージ動画を制作しています。

頑張れウズベキスタンを意味するウズベク語「オルガ ウズベキスタン」を合言葉に、選手や関係者を勇気づける内容となっています。

市民の皆様からご提供いただいた動画を一本の動画に編集し、YouTubeの舞鶴市公式チャンネルにて配信するほか、舞鶴市内外の公共施設や商業施設のモニターでも放映する予定です。ぜひ、ご覧になってください。



3月下旬公開予定。
たくさんの動画提供ありがとうございました。

レスリング・柔道 選手情報

● コロナ禍でも選手は練習に励んでいます

ウズベキスタンでは、一時ロックダウン等により生活が制限され、代表選手団も練習ができない日々を送っていましたが、現在は緩和され、レスリング・柔道ともに通常練習を再開しています。

現在、レスリングは、代表選手を決める各種大会が開かれており、今後は4月以降の最終(アジア・世界)予選に出場する予定です。

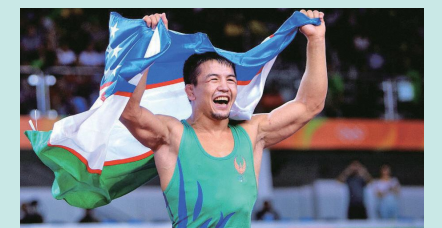
柔道は、オリンピック出場枠の獲得に重要なワールドマスターズ大会(1月開催)に代表選手が出場し、一昨年舞鶴を訪れた男子73kg級ツラエフ・ヒキマティッコ選手が3位に入賞しています。

ウズベキスタンでは、両競技ともにメダルが期待されています。東京オリンピックに向け、日々練習に励むウズベキスタン選手の応援をよろしくお願いします。

● ウズベキスタンのメダリストからメッセージが届きました

舞鶴市の皆さん、こんにちは。

エルムラット・タスマラドフです。私たちは東京オリンピックに向け、ハードな練習に励んでいます。私はこれまで2度オリンピックに出場しています。ホストタウンの舞鶴市で合宿を行うことを待ち遠しく思っています。東京オリンピックでは金メダルを獲得し、舞鶴市や母国ウズベキスタンに希望を与えられたらと思います。応援よろしくお願いします!



リオオリンピック レスリング59kg 3位
東京オリンピック 出場内定者
エルムラット・タスマラドフ

オリンピック聖火リレー

● 1964年東京オリンピックの聖火リレーの様子

1964年の東京五輪でも舞鶴市で聖火リレーが行われました。聖火リレーは2日間に渡り、20区間、26.3キロのコースで実施されました。

1日目は綾部市境(国道27号線)から舞鶴市役所までの12区間。2日目は舞鶴市役所から福井県境(吉坂トンネル)までの8区間で、1区間を23人、計460人で走りました。

当時は、距離が長いこともあり何度も練習を行い、本番を迎えられたそうです。



1964年当時の聖火ランナー(市役所前)

● 東京2020オリンピック聖火リレー

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オリンピックと共に昨年予定されていた聖火リレーも延期となりましたが、今年5月25日(火)に舞鶴市においても実施される予定となっています。

詳細は大会ホームページ等で公表される予定となっています。



福井県境での聖火引継ぎ